

平成 27 年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立本庄小学校

4 月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒等に役立てることやこれらの取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成 27 年 4 月 21 日（火）

■ 調査の対象学年

小学校 6 年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語 A, 算数 A, 理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語 B, 算数 B, 理科〕
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備や状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

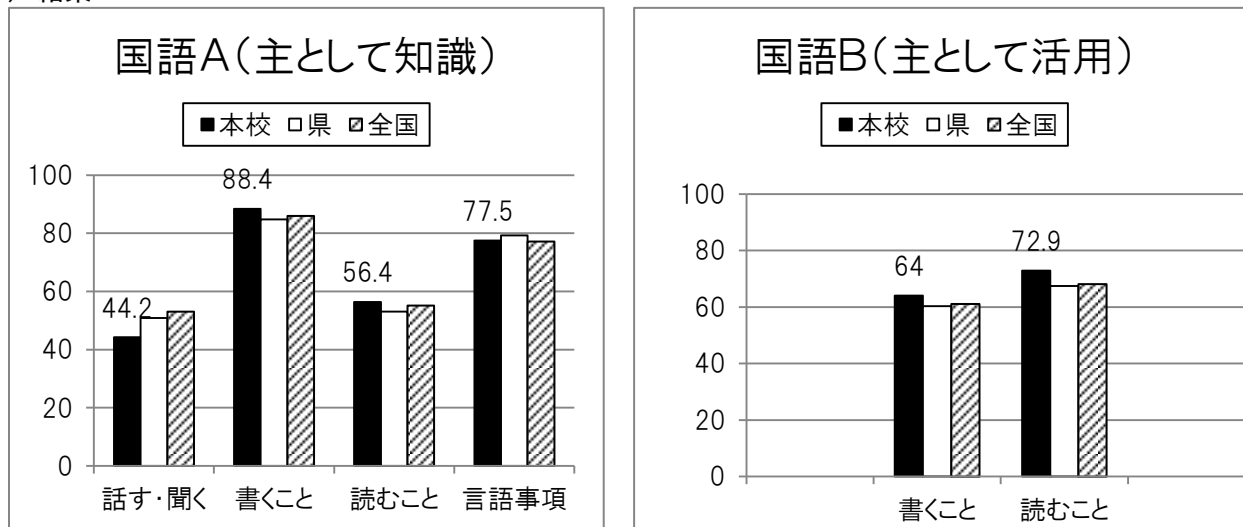
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学 6 年生（中学 3 年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数（数学）、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語

(1) 結果



(2) 課題

話す・聞く

- ・聞き方の説明として適切なものを選択する問題の正答率が低かった。話の内容に対する聞き方を工夫することができるように、知識や技能を習得する必要がある。意識調査では、授業中の発表に消極的になっている一面が伺えるので、目的や状況に応じて実際に話す機会をもてるよう意欲も高めていきたい。

書 く

- ・【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く問題の正答率が低かった。目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く力を高める必要がある。無答率は低いことから何とかして解答しようとする姿勢は十分に伺える。

読 む

- ・国語Aでは、コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く問題の正答率が低かった。表現の工夫をとらえるための知識の取得、文章に即して忠実に読み取る技能の習得に課題があると考ええる。新聞や読書など文字を身近に感じられるような文字言語環境の設定も必要があると考ええる。

言語事項

- ・文の主語として適切なものを選択する問題の正答率が低かった。日常生活の中でも言語と述語についての知識・理解・技能の力を継続的・系統的に育む必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

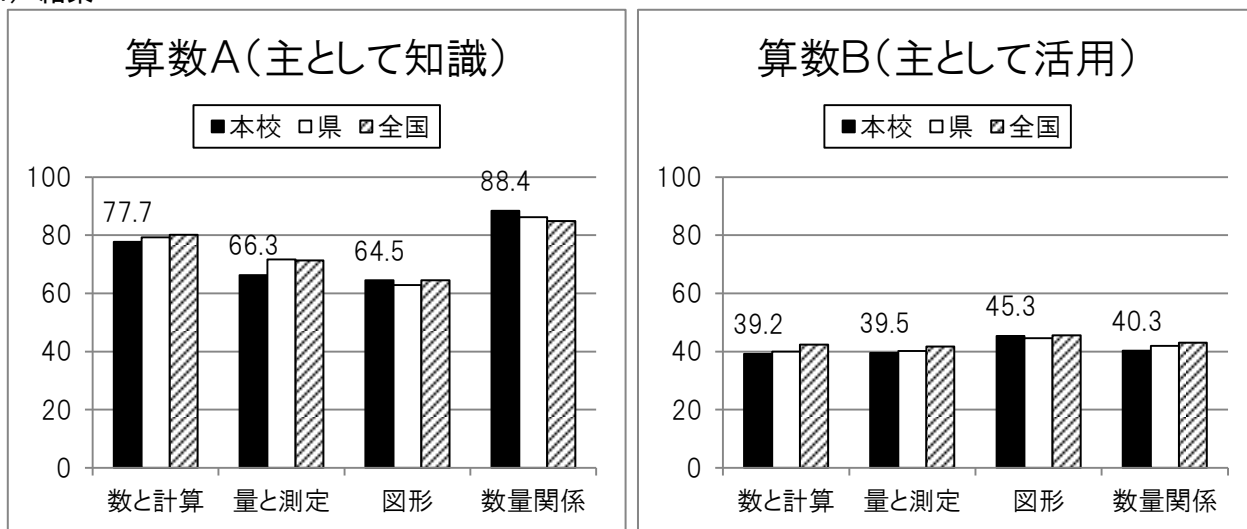
昨年度に引き続き、本に親しむ習慣（朝の読書）を身に付けさせるとともに、語彙を広げ文字に親しむ朝の活動（パワーアップタイム）の取り組みを充実させます。また、教育活動全体を通して、立場や目的、意図を明確にした言語活動を充実させていきます。

【ご家庭では】

親子で、読書に親しんだり、生活での出来事や新聞記事（ニュース）について話題にしたりするなど、言葉が生活や社会と密接にかかわり合った環境は素敵だと思います。今後も、子どもたちが実感をもち、楽しみながら、語彙力を高め知識の幅を広げる取り組みにご協力ください。

2 算 数

(1) 結果



(2) 課題

数と計算

- 算数Aでは、末尾の位のそろっていない小数の減法 $[6.79 - 0.8]$ 、異分母の分数の減法 $[5/9 - 1/4]$ の誤答が多かった。概数を用いるよさを実感できるような活動を仕組んでいく必要がある。また、算数Bでは、四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く問題の誤答が多かった。十進位取りと四則計算について理解・定着できるよう、今後とも低学年からの積み上げを大事にする。

量と測定

- 午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める問題の正答率が低かった。時間と時刻の関係を明らかにし、日常生活の中でも、時間や時刻を意識させ、繰り返し使わせていく必要がある。

図 形

- 算数Aでは、示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択すること、算数Bでは、示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を記述することに、課題が見られた。作図など算数的な活動を通して、図形の特徴を理解させ、説明できるようにしていく。

数量関係

- 示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述する問題につまずく子どもが多かった。示された情報を整理し、筋道立てて考え、自分の考えを記述する力を育む必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

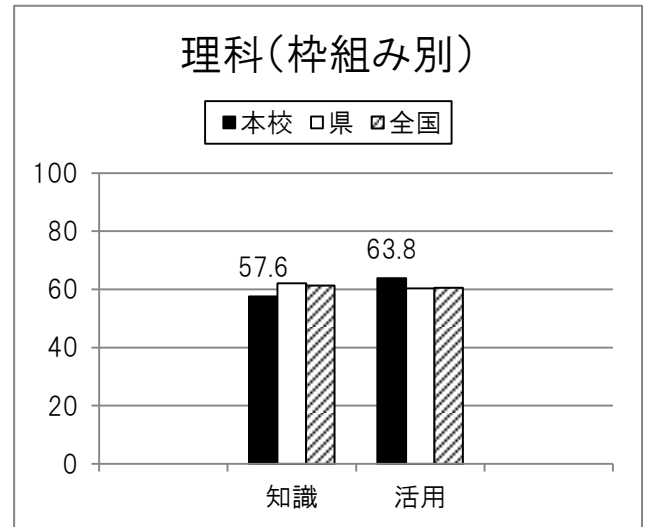
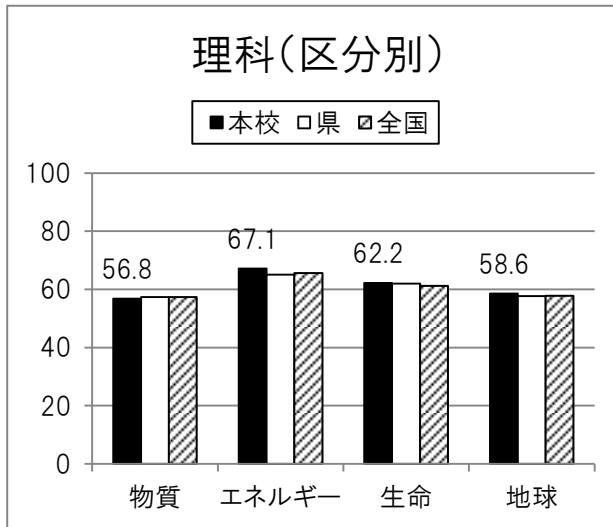
今後も、基礎的な計算力を育み、学びの定着を測る取り組み（パワーアップタイム）を充実させます。また、算数の学習においては、題意をとらえる場面や互いの考えを練り合う場面を大切にし、言語活動の充実を図ることで基礎・基本の定着を図っています。さらには、少人数・TT指導も単元や児童の特性に合わせ効果的に組み入れ、子どもたちの学力向上を目指します。

【ご家庭では】

生活場面でも算数を話題にしてみたり、子どもたちの考えの根拠を尋ねたりしていただくなど、算数の日常化を図り有用感を感じさせていただけると幸いです。宿題のチェックやテストの見直しなども一緒にしていただき、つまづきを早めに見つけ、学習内容を一つ一つ身に付けることで、子どもたちはさらに自信と安心感をもって、自分の力を発揮できると思います。

3 理 科

(1) 結果



(2) 課題

主として「知識」に関する問題

以下の項目において正答率が全国平均を下回っていた。

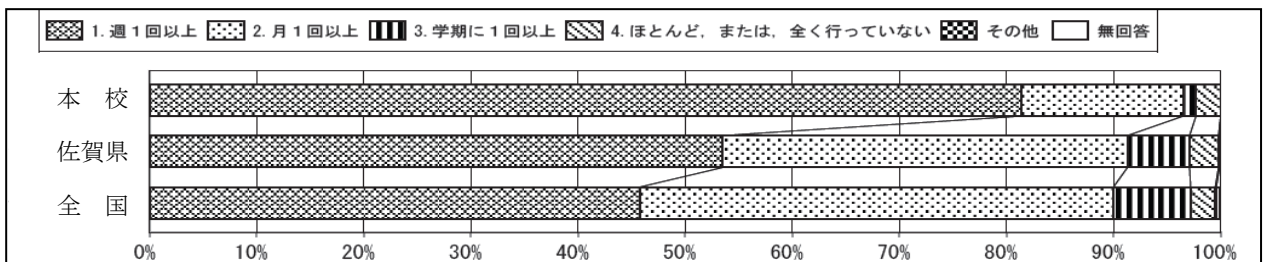
- ・メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ。(物質)
- ・示された器具(顕微鏡)の名称を書く。(エネルギー)
- ・顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ。(エネルギー)
- ・星座の動きを捉えるために必要な記載事項を選ぶ。(地球)
- ・水が水蒸気になる現象について、その名称を書く。(地球)

主として「活用」に関する問題

以下の項目において正答率が全国平均を下回っていた。

- ・電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組み合わせを選ぶ。(エネルギー)

資料1 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか。[児童質問紙]



(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

資料1からも分かりますように、自分の予想を基に観察や実験の計画を立て、その結果からどのようなことが分かるのか考えさせ、物に自分で触れて、見て、実感を伴った理解が得られる授業を大切にしています。今後もこのような指導法を継続していくと共に、機会をとらえて、知識・技能について繰り返し確認していくようにしたいと考えています。

【ご家庭では】

子どもたちが、生き物や天体、電気など科学的なものに興味を示したとき、一緒に観察をしたり調べたり、逆に質問を投げ掛けたりしていただくと、理科好きな子どもたちが増えると思います。インターネットや書籍による知識もよいですが、実際に自分の目で見て、手で触れる機会を作っていただければと思います。子どもたちの好奇心を温かい目で育てていきたいものです。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

(%)

調 査 項 目	本校 (昨年度)	本校 (今年度)	全国 (今年度)
朝食を毎日食べている	98.6	91.9	87.6
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	85.2	74.4	79.5
毎日、同じくらいの時刻に起きている	94.6	93.0	91.0
平日2時間以上テレビを見る	59.5	68.6	59.2
平日1時間以上ゲームをする(パソコン・携帯型・スマホ型も含む)	36.5	46.5	54.6
平日読書を30分以上している。	55.4	37.2	37.7
平日読書は全くしない～10分未満。	19.0	37.2	35.7
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしている	81.1	74.4	79.5
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしない	5.4	3.5	4.5

ご家庭の協力もあり、基本的な生活リズムはおおむね身に付いているようであるが、就寝時刻が遅くなりつつあることがうかがえる。テレビやゲームに時間を取られていることが推測される。学校での様子を見ると、休み明けに疲れた様子で元気がなく、週後半に持ち直してくるという印象である。また、読書や家族の会話も、全国平均から見て低い傾向にある。

《家庭学習の様子》

(%)

調 査 項 目	本校 (昨年度)	本校 (今年度)	全国 (今年度)
学校の授業時間以外に、平日2時間以上勉強している	32.5	23.3	25.7
学校の授業時間以外に、平日1～2時間勉強している	39.2	29.1	37.7
学校の授業時間以外に、平日0～1時間勉強している	24.3	47.7	37.2
家で、学校の授業の復習をしている	59.4	52.3	54.5
家で、自分で計画を立てて勉強をしている	67.5	59.3	62.8
新聞をほぼ毎日読んでいる	18.9	10.5	8.7
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る	87.8	76.8	84.3

家庭学習に関して、質、量ともに、昨年度の結果及び全国平均の値を下回っていることが分かる。家庭学習が習慣化している子どもたちと、そうでない子どもたちに、2分化(2極化)される傾向にあると考える。全体への指導と共に、個別の働き掛けをしていく必要がある。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

基本的に、毎日宿題を出します。自学(自主学習)については、中・高学年を中心に取り組みを充実させていきます。その際、表彰をしたり、放送で紹介したりしながら、学校全体に自学の取り組みを広げていきます。また、朝の読書も継続して取り組みます。朝の時間もメディアセンターを利用できるようにするなど、環境も整えていきます。

【ご家庭では】

日頃より、子どもたちの生活習慣に目を向けて下さっていることに感謝申し上げます。今後も、「早寝・早起き・朝ご飯」のサイクルを整えていただけると嬉しいです。家庭学習につきましては計画的に継続的に取り組む中で、量や質の向上を目指していくことも大切です。子どもたちの取り組みを見守っていただくとともに、「褒め」と「励まし」の言葉掛けを意識していただけると嬉しいです。どうぞ、よろしくお願いいたします。

